

【方向性1】 自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる ～古くて新しくて心地よいまち～

具体目標	行動	取組例
1. 金沢独自の生活、生業、界隈性を再認識して継承する	①自然・歴史・文化のなりたちとその価値を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●金沢の生活、生業、界隈性の価値を再認識する学びの機会をつくる ●学校教育などで金沢の自然・歴史・文化への感受性を高める学びの機会をつくる ・金沢の歴史や文化を語るができる人を増やす
	②祭礼・風習・季節感を大事にする	<ul style="list-style-type: none"> ●季節の和菓子や町会での祭礼などを受け継ぐ ●習い事をする
	③自分たちが住んでいる地域に関心をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校と協力して身近なまちの資源さがしをする ・地域ごとに、自分たちの暮らしや地域の特色を知るイベントを催す
	④そして、まちなかに多世代が住む	<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかのライフスタイルを発信する、体験する ●まちなかの商店街や地元のお店で買い物する ・持続可能なまちとして、人口を居住誘導区域へ誘導する（まちなか及び公共交通重要路線の沿線） ・町家を保全活用して継承する ・子育て世帯に選ばれる魅力的な小学校をまちなかにつくる
2. 歩いてまちの魅力を感じる	①つい歩きたくなるまちをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史的遺構や庭園を活かして気持ちよく歩ける連続した空間をつくる ●道路や公園や広場ではまちにとけこむ質のよい緑をつくり守る ●細街路を安心して歩けるよう、自動車の交通規制（路線や時間帯）を増やす ・用水を自然に感じられるようにする ・歩行者や自転車が優先の道路を増やす ・魅力的な小路をつなぐ ・自転車・高齢者カート・キックボードのレーンを整備する ・まちなかに駐輪場やサイクルスタンドを増やす
	②マイカーをやめてみる	<ul style="list-style-type: none"> ●通勤や業務や私事で、バスや電車に乗る日を増やす ●歩くには遠いところへはマイ自転車や「まちのり」を使ってみる ・普段歩かない道や場所を歩いてみる ・カーシェアリングやレンタサイクルをつかう ・公共交通を使ってまちなかを巡る（観光地、文化施設等） ・歩いて移動して健康になる
	③乗りたくなる公共交通にする	<ul style="list-style-type: none"> ●マナーを守り、公共交通を互いに気持ちよく利用できる環境をつくる ●心地よいバス停や駅舎をつくる（包摂性が高い、デザインがいい、便利） ・積極的に公共交通を使ってみる（公共交通中心のライフスタイルに転換する） ・お出かけが楽しくなるような公共交通のネットワークを構築する ・バスや鉄道などの公共交通を地域の大切な足としてしっかり活かす工夫を重ねる ・郊外からまちなかへの移動を便利にする ・MaaSなど、みんなの移動に新しい技術を取り入れる

【方向性1】 自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる ～古くて新しくて心地よいまち～

具体目標	行動	取組例
3. 自然と調和し災害に強いまちをつくる	①自分が住んでいる地域の自然災害リスクを知る	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニティでの防災知識の習得や防災活動を行う （みんなが避難のしかたや避難所を知っている、防災キャンプ、避難訓練など） ●これまで発生した災害（地震、水害、土砂災害等）の話を知る ・山林を適切に管理し、土砂災害を防止する裸地・斜面の緑化を進める
	②個人、地域、行政がグリーンインフラをつくる、つかう	<ul style="list-style-type: none"> ●個人宅の庭の意義を理解し、つくり育てる（植樹、雨庭、自然素材をつかう） ●月極パーキングやコインパーキングを緑化する ・生物多様性を担保する貴重な鎮守の森や斜面緑地など連続するグリーンインフラを守る ・公園をグリーンインフラの視点で見直し再整備する
	③生物文化多様性の価値を知りまもる	<ul style="list-style-type: none"> ●生物文化多様性を体感できるエコツアーをする ●金沢ならではの自然と文化のつながりを意識した環境保全活動を進める ・持続可能な農林漁業を進める
4. 多世代がわくわくするコトと場をつくる	①まちなかと里山・田園地域が交流する	<ul style="list-style-type: none"> ●中山間地のものが手に入りやすくする（まちなかでの朝市、里山へでかける交流、地産地消の推進） ●いろいろな場所に小さな畑やコミュニティガーデンを増やし、利用をマッチングする ・まちなかと里山の小学生が交流する ・市民への農家アドバイザー制度（土作り、施肥、農薬管理、余剰収穫物の市場出荷）をつくる ・地域の農地を使った食育を進める
	②まちなかで新しいコトが起きて偶然が生まれる	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週、土日に道路空間を歩行者に開放し、まちなかマーケットなどを開催する ●まちなかでスポーツを楽しめる場と機会をつくる
	③界限（エリア）のカラーを打ち出す	<ul style="list-style-type: none"> ●界限（エリア）の独自性を生かしつつ、新陳代謝する（リノベーションなど） ●生活や暮らしに近い、裏通りや商店街のカルチャーを育てる
	④新しい場所をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●公園や広場を使い倒す ●河川敷に楽しい場所をつくる ・まちなかの公共空間を市民、観光客、事業者などが積極的に利活用する

【方向性2】 環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる ～“もったいない”がないまち～

具体目標	行動	取組例
1. あらゆる手段で、二酸化炭素の排出量を抑える	①みんなが参加しやすい省エネを進める	<ul style="list-style-type: none"> ●照明のLED化を推進する ●ゼロ・エネルギー・ハウス、ゼロ・エネルギー・ビルの導入を進める ●クールシェア・ウォームシェアできる地域の居場所を用意する（地域で管理するコミュニティスペース） ・ゼロ・エネルギー・ハウスへの取組企業が分かる仕組みをつくる ・省エネ家電への買い替えを促進する ・家庭での省エネへの取組を促進する ・断熱性能等の高い（かなざわ向け）賃貸住宅への入居を促進する
	②再生可能エネルギーの導入を進める	<ul style="list-style-type: none"> ●太陽光、風力、太陽熱、地中熱、バイオマス、小水力などを個人が選びやすいようする ●公共施設や防災拠点等における再生可能エネルギー設備の導入を進める ・豊富な地下水や森林資源を活用した地中熱やバイオマスの活用を推進する ・廃食油を回収する仕組みを構築し、ごみ収集車やディーゼルエンジンに活用する ・マンションの住民で出資して屋上太陽光＋蓄電池を設置する
	③人と環境にやさしい交通手段を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ●通勤や業務や私事で、バスや電車に乗る日を増やす（再掲） ・自転車・高齢者カート・キックボードのレーンを整備する（再掲） ・まちなかに駐輪場やサイクルスタンドを増やす（再掲）
2. 環境負荷の少ない「つくる・運ぶ・売る・買う・使う・捨てる」にシフトする	①環境負荷の少ない作り方をあたりまえにする	<ul style="list-style-type: none"> ●企業が環境保全に役立つ資材調達や製造工程などを知って取り入れる ●環境負荷の少ないものづくりやサービスを進める企業を評価する仕組みをつくる ・事業者の共同物流システムを構築する ・アップサイクルを普及させる ・安定生産量実現のための地元生産者組合をつくる ・環境ISOを推進する
	②地元農水産物を利用するとともにフェアトレードに親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ●地野菜や規格外農水産物を利用したり買ったりできる場を増やす ●学校給食に使用する地元農水産物の比率を高める ●フェアトレードについて知る機会を増やす ・環境に配慮した資源循環型農林業・水産業のしくみをつくる（金沢独自の認証制度など） ・地野菜のシードバンクや、温暖化対応品種の開発を進める ・規格外野菜などの付加価値化をすすめる ・地元生産者と流通者、販売者の出会いの場をつくる
	③地域の自然を活用する	<ul style="list-style-type: none"> ●林地残材の木質ペレット化や、伐採竹の製品利用、公園整備や除草などで出る植物資材のバイオマス利用を促進する（森林環境税を活用して林地残材の運搬・利活用の補助を行う等） ・金沢産の木材を使った住宅を普及させる
	④環境にやさしい消費行動をあたりまえにする	<ul style="list-style-type: none"> ●ばら売り、量り売りするお店を増やす ●給水スポットを増やし、マイボトル利用者を増やす ・エシカル消費や環境に配慮する消費者（グリーンコンシューマー）を育成する ・包装容器デポジット制度をつくる

【方向性2】 環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる ～“もったいない”がないまち～

具体目標	行動	取組例
2. 環境負荷の少ない「つくる・運ぶ・売る・買う・使う・捨てる」にシフトする	⑤プラスチックを削減する	<ul style="list-style-type: none"> ● 食器リユースのしくみを構築し、イベントでの使い捨てプラスチック食器を削減する ● 公共施設・量販店などの使い捨て傘袋をなくし、脱水機の設置を普及する ・ ペットボトルのデポジット（返却金）制度のモデル実施をする ・ プラスチックのポイ捨てを許さない仕組みをつくる ・ 洗濯ネットを普及し、衣服の洗濯によって生じる流出マイクロプラスチックを減らす ・ 行楽ごみを持ち帰る
	⑥ごみ削減・資源化の取り組みを進める	<ul style="list-style-type: none"> ● 量販店やデパートと協力して包装（過剰包装や包装プラスチック）を減らす ● 事業者、消費者、行政が一堂に会してごみ削減に関する情報交換する場を定期開催する ・ 商店街・スーパーマーケット・公民館と協力し、資源回収ステーションを整備する ・ ダンボールコンポスト、電気処理機など、生ごみを循環させる道具を普及する ・ 地域の人同士で、ものの循環が生まれる場を増やす
	⑦食品ロスを減らす	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品ロスゼロを目指すホテルや飲食店を増やす ● 食品スーパーや小売店の消費期限が迫った生鮮品を受け取れるフードバンクの仕組みを構築する ● 3010運動を推進する ・ 個人も商店も、必要な分だけ買う、必要な分だけ注文する ・ 不用食品を持ち寄るフードドライブの仕組みを普及する ・ フードシェアリングアプリT A B E T Eを普及する

【方向性3】 次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる ～子供がゆめを描けるまち～

具体目標	行動	取組例
1. 子供の多様性を尊重し、個性を伸ばす	① 子供に新たな知見を取り入れた最先端の教育を含む多様な教育を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ● アクティブラーニングなど自主性を育てるような教育を実施する ● 実践型インターンシップなど社会での実践の場をつくる ● 世界で起きていることと、金沢の身近で起きていることを関係づけて、感じたり考えたりできる学習を進める ・ グローバルスタンダードを意識した教育内容の導入 ・ 教育開発の知見を蓄積し、誰でも見られるようにする ・ SDGsをESDの一環として学ぶ ・ 世界のユネスコスクールと交流を進める ・ 仮称「金沢SDGs中学生会議」を開催する。（海外の交流校からも招請する。）
	② 地域と連携して学校外での子供の教育を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供たちのライフステージに応じた親の学びを充実させる ● コミュニティ・スクールを全市で実施し、学校と地域、家庭の協力協働を進める ● 金沢の文化芸術分野で活躍する人の協力を得て、児童館や保育施設などでの活動の創造性を上げる ・ 公民館や廃校を中心とした多様な学びの居場所をつくる ・ 多様な主体と、社会の仕組みを楽しく学ぶ場をつくる（選挙、民主、起業、街、仕事など） ・ 公共図書館や学校図書館における放課後学習支援を充実させる ・ 全天候型プレイパーク x 自然体験型宿泊施設を充実させる ・ 学校や公民館、子育て支援組織を中心とした放課後学習支援の充実（塾 or 自然体験 or 英会話 or プログラミングを選んで学べる環境など） ・ 金沢の習い事文化を豊かに経験できる仕組みをつくる ・ オルタナティブスクール(フリースクールを含む)と連携する
	③ 子供の可能性を大らかに認め、柔軟性のある個に寄り添った教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ● 金沢の強みを活かした自然やアート、スポーツにふれる教育を充実させる ● 自由な発想、ワクワク感、認めあう環境をつくる ● L G B T、障害のある人などと場をともにするインクルーシブ教育を充実させる ・ 遊びや余白の時間を増やす
	④ 特別な支援を必要とする子供たちに多様な選択肢を提供する	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育を放課後支援も含めて充実させる ● 障害のある児童生徒の就学就労等に関する情報を市民で共有する ・ 児童発達支援センターを中心となって障害児支援事業者間が連携を進め、障害のある児童への地域支援体制を構築する ・ 就学支援、就園奨励制度を充実する(放課後学習支援を含める)

【方向性3】 次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる ～子供がゆめを描けるまち～

具体目標	行動	取組例
<p>2. すべての子供たちが安心して暮らし育つことができる環境をつくる</p>	<p>①家庭が困窮な状況にあっても生活できるよう支援する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童養護施設や里親の元で暮らす子供たちの生活を充実させる ●子供の支援団体のネットワーク化を進め、連携により貧困家庭への支援体制を強化する ●子どもソーシャルワーカーを増員する ・こども食堂の運営に企業から資金面での支援を行う
	<p>②子供を、学校・家庭・地域のみんなで見守り、子供に起きている深刻な問題を見逃さない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●児童虐待や非行、貧困など子供に関連する問題が市民の誰にでも理解されるよう見える化する ・虐待などの通報がきたものを対処するのではなく、虐待が起きないための対策を実施する ・児童相談所の人的配置等を拡充し、きめ細かで適切かつ迅速な対応を充実する ・金沢方式の公民館の自主性を高め、企業、NPOなどと連携し、問題を抱える子供たちの受け入れ体制を整える ・家庭と学校・幼稚園・保育園、児童相談所・子育て支援団体の連携を進める
	<p>③親も子供も安心して笑顔で暮らせるまちをつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域や職場で子育ての喜びや課題などを共有できるようにする ・地区児童館、放課後児童クラブの機能を強化する ・家庭や地域の総ぐるみで子育てを行えるようにする ・子供の環境向上につながる親への支援を官民が連携して行えるようにする。 ・働く親が家庭教育や学校教育、地域の活動に参加しやすくするための働き方改革を進める ・親子の接する時間を選択できるようにする (もつとふれあいたい人はふれあい、自分の時間が欲しい方はサポートを得られる環境を整える) ・子供が外に出かけられる、親子で外に出かけやすい、優しい街をつくる
	<p>④子供に関わるあらゆるセクターの連携を強化する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校・幼稚園・保育園、児童相談所・子育て支援団体の連携を進める ・子供たちの命をつなぐ教育と福祉の連携における金沢方式の導入
<p>3. 学校に多様な人が連携して関わることで、学校に関わる全ての人々が幸せになる</p>	<p>①みんなが学校について話し合ったり関わったりする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●学校について広く話し合う場、専門家や現場関係者による議論の場を持つ ●学都である金沢の強みを生かして、大学生が教育現場や子供に積極的に関わる ●部活動の指導に民間を活用する ・民間による学校、先生のサポート体制、コーディネーターの設置 ・SDGsをイメージできるプロモーションビデオを作成し、発信する(取組み側も盛り込む)
	<p>②独自の教育を展開するための資源を確保し、学校の自由度を上げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●NPOなど学外の人材を活用する仕組みをつくる ●子供が地域の未来を担うことについて納税者の理解を得る。そのための発信や議論を実施していく ・教育ファンドを設立する
	<p>③先生が成長し続けられる環境をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●先生のワークライフバランスを改善する ●教員が持続可能な社会を描くスキルを身につけるための研修や実践を続けるとともに、外部との接点を増やす ●多様な人材を教員に採用する ・先生のメンタルケアを重視する

【方向性4】誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる ～働きがいも、生きがいも得られるまち～

具体目標	行動	取組例
1. 多様な価値観や文化を大切にする	①あらゆる場面でジェンダー平等を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> ●意思決定の場面では、多様性を確保するためジェンダーバランスに配慮する（クォータ制の導入） ●地域、町会、PTA活動、家事・育児・介護などでのジェンダー不平等をなくす ・職場での女性管理職登用を推進する
	②LGBTフレンドリーなまちにする	<ul style="list-style-type: none"> ●LGBTを理解する場や機会を増やす（例：「OUT IN JAPAN」のようなイベントを身近な場所で開催） ●同性パートナーシップ制度を浸透させる
	③外国の文化や生活を理解し、尊重する	<ul style="list-style-type: none"> ●異文化を理解するために、外国出身者と気軽に交流できる機会をつくる（「食文化」を理解する料理教室など） ●外国出身者が不便を感じる部分や、金沢のよい部分などを見える化する
	④障害者フレンドリーなまちにする	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな障害や、それによる社会的不利があることを知って理解する ●障害の有無に関わらず、気軽に話し合ったり、助け合ったりできるまちにする ・自分の生活、地域、職場で、何が問題になっているのか、あるいはできることはなにかを自分ごとにして考える
	⑤異なる価値観や文化を知り、対話する	<ul style="list-style-type: none"> ●異文化、多様な性や家族のあり方、障害の有無、子供・若者・高齢者など、自分以外の価値観を知り理解する ●意思決定の場面に、世代その他のバランスの取れた多様性を確保する ・小学生などを対象とした多文化共生のプログラムを実施する ・多様かつ多世代が交流する場をつくる（こども食堂など）
2. 誰もが自信と生きがいをもって生活することができる	①いろいろなコミュニティに関わってみる	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動やイベントに参加してみる ●NPOやプロボノなど、さまざまなコミュニティに所属する ・会社以外の場で活躍できる機会をつくる
	②誰もが自分の人生に自信をもつ	<ul style="list-style-type: none"> ●他者との対話などを通して、自分の好きなこと・得意なこと気づくことができる機会をつくる ●人生におけるライフシフトやタイムマネジメントについて学ぶ ・好きなこと・やりたいことに熱中できる環境を、自分自身および、家庭、地域社会、企業などがつくる ・自分のスキルと社会のニーズが可視化・マッチングされ、社会貢献活動に取り組みやすくする ・クレーム社会を是正する
	③芸術やスポーツが身近なまちにする	<ul style="list-style-type: none"> ●地元プロスポーツチームを応援する ●ミュージアムや音楽会にふらっと出かけてみる ●芸術やスポーツに取り組む
3. 誰もが学びたい時に学べる場がそこら中にある	①多世代がいつでもどこでも学べる	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館を市民の憩いの場とし、最新機器から、ゆったりと読書でき、対話もできる空間を確保する ●生涯にわたって教育と就労を交互に行うリカレント教育を奨励・充実する ・大学での社会人教育のプログラムを充実する ・現在展開している市民講座やさまざまな学びのプログラムのデータベースを作成し、発信する（職人大学校、ボランティア大学校、高砂大学、公民館など） ・企業が社員の学びに対しての環境整備を行う（支援制度など） ・e-ラーニングによる生涯学習を受け入れる環境の整備を行う（e-ラーニングによる金沢かがやき発信講座の実施）
	②まち全体を学びの場とし、市民が相互に教え、学びあう	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館の活用状況を調査してみる ・社会教育として公共の場である公民館や廃校を中心とした多様な学びの居場所をつくる ・「IMAGINE KANAZAWA 大学（仮称）」を設立し、市民が相互に学びあえるしくみをつくる

【方向性4】誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる ～働きがいも、生きがいも得られるまち～

具体目標	行動	取組例
4. 一人ひとりが、何度でもチャンレンジし続けることができる	①働きたい意欲のある“ヒト”に合わせた就労を支援する	<ul style="list-style-type: none"> ●職場や移動環境をバリアフリーにする ●妊娠、出産、病気などでやむを得ず離職した人が、再就職しやすい社会をつくる ●ジョブコーチと連携し、障害のある人が円滑に働けるように、支援環境を整える ・就労にともなう各種カウンセリングやリハビリテーションを充実する
	②誰でもいつでもどこでも働くことのできる環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●テレワークやリモートワークを社会全体で推進する （美味しいテレワーク事業：食が魅力的な冬季のテレワーク推進など） ・wi-fi環境が整った場所やコワーキングスペースをあちこちにつくる
	③いろいろな働き方や休み方ができる風土と環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●組織に属しているかどうか、有利・不利に結び付かない風土をつくる ●サバティカル休暇やワーキングホリデー等の制度を浸透させる ・先進的な働き方をしている人や企業などの情報を発信する ・企業間の交換留学制度やインターンシップ制度をつくる ・企業がいろいろな働き方ができる仕組みを用意する ・お店の24時間営業を求めない、週休2日を徹底する

【方向性5】文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる ～新しいもの、ことを生み出すまち～

具体目標	行動	取組例
1. イノベーションが起きやすい条件と要素をみつめる	①金沢の強みである文化を知って磨く	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな文化的な催しやイベントに出かける。普段行かないものにも行ってみる ●金沢が磨いている要素（生活文化、工芸、茶道、建築景観、自然など）を理解する ・文化に関するデータベースをつくる
	②いろいろな市民がテクノロジーを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ●テクノロジーリテラシー教育を実施する ●オープンデータを使った市民による社会変革プロジェクトを立ち上げる ・オープンガバメントを推進する（行政情報をオープンにし、市民が政策決定への参加を促進する統治の考え方）
	③感性豊かな人を育む	<ul style="list-style-type: none"> ●自然に触れる機会をつくる ●おしゃれして出かける ・鈴木大拙、西田幾多郎など哲学を学ぶ機会を増やす ・五感を活かす教育プログラムを開発する
	④お金の循環を作る	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション投資が起きやすい仕組みをつくる ・スタートアップ支援を充実する ・クラウドファンディングの文化を浸透させる
	⑤挑戦を応援し、失敗からの学びを賞賛する風土をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●学校への起業家派遣や起業家育成プログラムを提供するなど、起業家教育を行う ・アントレプレナーシップを尊重する
2. イノベーションのエコシステムを形成し化学反応を起こす	①多様な人や企業が交わる「場所」をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●I Tビジネスプラザ武蔵、価値創造拠点をハブとする新しいビジネスモデルを作る ・パブリックスペースを、市民が集いやすいような魅力的な空間にする ・マイカーを使わなくても行けるよう、公共交通や歩ける環境を充実する
	②多様な人の出会いを促進させる「機会」をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●人をつなぎ、場を作る触媒となるコーディネーターを発掘し育成する ・市民が生活文化を講義する市民文化講座「百万石大学（仮称）」を開講する ・金沢に来た人と、金沢の人が交流できるイベントを開催する ・大人のインターンシップ制度を促進する ・地域のコミュニティ活動に積極参加する
	③企業がSDGsを取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ●社会課題を全体で解決するバックカスティング思考をイノベーションのエンジンにする ・異業種ハッカソンやビジネススクールに企業が積極的に参加する
	④気軽に出入りし滞在できるまちにする	<ul style="list-style-type: none"> ●簡易宿所やアーティスト・イン・レジデンス施設など、滞在しやすく持続可能なツーリズムモデルをつくる ●短期利用できるレンタルオフィス、コワーキングスペースをつくる
	⑤世界と直接つながる	<ul style="list-style-type: none"> ●世界規模の工芸見本市を開催する ・K O G E I を世界に発信し、金沢がハブになる ・世界的権威を招聘し、グローバルスタンダードを理解する
	⑥創造的人材（職人、芸術家、エンジニア等）に敬意を払うまちにする	<ul style="list-style-type: none"> ●創造的な仕事に正当な対価を払う ●創造的人材が自分の力で事業継続できるよう支援する ・長期滞在の宿泊優遇やアーティストインレジデンスをすすめる

【方向性1～5をすすめるパートナーシップ】

具体目標	行動	取組例
1. 多様な人が金沢SDGs行動計画に参画する	①金沢SDGsについて気軽に学べる	<ul style="list-style-type: none"> ●誰もが参加しやすいSDGs勉強会や出前講座、イベント等を開催する ●子どもへのSDGs教育を進める ●SDGsのまちづくりに関するデータや情報をオープンにする ●SDGsの目標と達成状況をわかりやすく発信する ・情報を受け取る手段として、回覧板、SNS、メディア、会合など多様な手段を組み合わせる。 ・SDGsに関する情報について、多くの人が理解しやすいよう、わかりやすい図やデータ、言葉を使うようにする
	②金沢SDGs行動計画のプロセスとアクションに市民や企業が参画する	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまなコミュニティ、企業、団体、行政組織等の取組を知り、つながる機会をつくる ●SDGs行動計画づくりとアクションに市民や企業の意見や対話を反映する ●市民や企業が実践するSDGsの取組を情報発信する
2. 連携による協働で目標を達成する	①多様な人・組織のアイデアやネットワークを活かす	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の既存組織のネットワークを活用する ●さまざまな教育現場や生徒、学生と連携した取組を推進しアイデアを実行する ・大学を超えて活動できるユースチームをつくる
	②SDGsのアクション起こす基盤をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●SDGsの達成状況や実行主体を見える化して発信する ●環境負荷軽減などの共通するテーマに対して市民がディスカッションできる場をつくる ・各地区の協働の取り組みを他の地域でも活用、定着させる仕組みをつくる ・市民や学生のアイデアをプロジェクト化する
	③横串を刺すパートナーシップをすすめ、コレクティブインパクトを生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ●行政の部署横断のプロジェクトを拡充し、まちづくりのプロセスに市民参画や官民協働の取組を意識して進める。 ●大学間連携、事業者間連携など、目的や分野の近い同業者との協力関係を構築する ●パートナーシップによるパイロット事業を立ち上げる